◆　台東都税事務所長賞　◆

「税の呼吸」

台東区立上野中学校　２年　　安田　光央

「やっぱり、靴が大きくて走りにくそうに見えたよ。」

一年生の頃、陸上競技大会が終わった直後の母の申し訳なさそうな感想だった。私は中学に進学する際、母に沢山お金を使わせてしまったと思い、陸上競技用の靴を買わず通学用のスニーカーで大会に出場したのだ。「今年も大会に出られるからがんばろう」と思っていたとき、台東区から子育て世帯こども商品券が届いた。早速、近くのスポーツ用品店で陸上中距離専用の靴と靴下を買ってもらった。履いてみると、驚くほど足にフィットして走りやすかった。大会に向けた練習は大変で、辛いこともある。しかし、子ども商品券で買ってもらった靴を履いて走ると、単なる走りやすさだけでなく「納税者の方々に応援してもらっている」という感情が湧き出てきた。そう思うと、どんなに苦しい状況でも一歩を踏みだすことができた。

私の主な練習場所は上野公園だ。もちろん、国立科学博物館の前も走る。そんなある日、ニュースで国立科学博物館がクラウドファンディングを呼びかけていると知った。現在、一億円の目標額を大幅に上回り六億円以上集まっているそうだ。「心が温まるニュースだな」と受けとめる一方で、「一億円を国が出せないの」や「こういうところに税金を使えば良いのに」という感想を持ってしまった自分に気がついた。

そこで、何故国立科学博物館がクラウドファンディングをすることになったのか調べてみた。かねてより余裕がない運営体制だったところ、昨今の社会情勢によりますます立ち行かなくなり、さまざまな活動が縮小、停止を余儀なくされる状況に陥ってしまった。ただ、クラウドファンディングを呼び掛けることによって、資金的な支援だけでなく、取り組みを応援してくれる新たな仲間と出会える機会になると考え、実行されたとのことだ。

税金の徴収とは呼吸で例えると吸う行為で、使うことは吐く行為だ。どちらが欠けても成立しない。二つで一つの役割を果たすなら、「どこにどれだけのお金が必要なのか」をしっかりと知っておくことが大切だと思った。

私が今出来ることは、一生懸命に走って身体を鍛え、健全に育ち、知識を得ることだ。そうすることで、将来働いて税金を納めるだけでなく、その使い道にも意見を持つことが出来る大人になると思う。納税者の方々がくださったこの靴で、私は未来に向けて走り出していく。